第８回　トラック輸送における取引環境・
労働時間改善岡山県地方協議会《議事概要》

平成 30 年 3 月 20 日(火) 14:00～16:00
岡山県トラック総合研修会館「202 研修室」

１．開会

２．出席者紹介（委員名簿及び出席者名簿による紹介）
高橋委員欠席、小野委員欠席

３．議題
（１－１）中央協議会について
［資料１に基づき説明（岡山運輸支局)］～略～

（１－２）荷主向け説明会について
［資料３に基づき説明【林田委員】］
・トラック協会備北分会の活動として、荷主企業に向けて運送業界の現状や標準貨物自動車運送約款の改正について説明会を行った。
・最初計画したときは、荷主の参加は少ないとも思ったが、関心を持って頂き荷主企業２４社３８名の参加があった。
・説明会終了後は、荷主の理解も一部得ることが出来、運送業者と荷主が今後について話し合う機会が設けられた結果、長時間の待機時間に対して対価が支払われる等の効果が見込まれている。

（１－３）有効求人倍率（平成３０年１月時点）について（岡山労働局）
・岡山県の職業全体の有効求人倍率⇒１．８１倍
・岡山県の自動車運転手（トラック・バス・タクシーを含む）の有効求人倍率⇒３．９２倍
・全国の自動車運転手の有効求人倍率⇒３．０３倍
・依然として運送業界は人手不足となっている。

【西田岡山県トラック協会専務理事】
・荷主が協力した下で、到着時間等を指示、設定できる貨物の荷受け側を【準荷主】といった位置づけで、協力要請する仕組みを検討して頂きたい。

【中岡委員】
・ドライバーの人手不足については様々な要素がある。最近では、定時制勤務を望む声や土日は休みたいという人も増えているが、荷主の都合によっては折り合いをつけなければならないときもある。

【有利座長】
・荷主・運送事業者それぞれの要望を調整していく必要がある。

（２）平成 29 年度パイロット事業について
［資料２に基づき説明（(株) 日通総合研究所)］～略～

【有利座長】
・ドライバーへのヒアリングの対象年齢層は何歳か。

【(株) 日通総合研究所　佐藤氏】
・佐良山運送⇒平均３０代～４０代　・クリナップロジスティクス⇒平均５０代

【クリナップロジスティクス(株)　稲林氏：オブザーバー】
・この度のパイロット事業によって、メーカーの側面（発着荷主）と輸送（運送事業者）の側面から検証することが出来た。
・荷積み、取り卸し作業についても、パレット化が進めば１時間程度の削減が今後見込まれることになる。
・メーカー（発荷主）と運送業者が接点を持てたことは良かった。今後この接点を維持継続していくことが大事になってくる。継続していくには物流原価負担を運送側、荷主側どちらが請け負うかという問題が出るが、すべてが運送側負担となってしまうと、運賃・料金が上がらない、つまり乗務員の賃金が上がらず運送業界の魅力も無くなってしまう。

・負担作業については、業界によっては自動化が進んでおり、いずれ全自動化されることもあるだろうが、それまでどう折り合いをつけていくかという点は検討すべき点である。
・法令を遵守することは、ドライバーの安全しかり、商品の品質保全にもなるという視点を荷主と運送事業者が意識して持つことが必要になる。

【有利座長】
・運送事業者、荷主どちらのパレットを使用しているのか

【クリナップロジスティクス(株)　森藤氏：オブザーバー】
・パレットは荷主のものを使用。ロールボックスについては自社のものを使用しており
　、回収も行っている。

【有利座長】
・パレット化しなかったレンジフードについては何か理由があるか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・レンジフードについては、物量数が少なく手荷役と時間が変わらないため
　行わなかった。

【須山委員】
・パレット化による積載効率の減少の話が出たが、サイズが小さいパレット使用についての
　検討は行ったか。また、積載効率はどの程度落ちるのか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・契約上の話にもなるため、そこまでは検証していない。

【クリナップロジスティクス(株)　森藤氏：オブザーバー】
・付属品に関しては、落ちても１０％程度である。
・換気フード本体を全てパレット化すると２０％程度の積載効率減少となる。

【クリナップロジスティクス(株)　稲林氏：オブザーバー】
・積載効率の影響の話が出ているが、積載効率を向上させ、ドライバー負担を減らしていく
　ためには受発注量を日々平準化し、変動を抑えていくことが必要である。

【近藤委員】
・荷量は生産量により変動してくる。荷量変動を先引きし、ある日が少なければ、前倒しで
　後ろの日の荷量を持ってくるように安定した供給を行っている。

【クリナップロジスティクス(株)　稲林氏：オブザーバー】
・前日に荷量変動という状態は今までなら可能であったが、これからは難しい。荷主は倉庫に仮置きする必要がある。その点では当社（荷主企業として）は苦労している。
・受発注が変動しないのであれば、荷主側としては物流費が抑えられる。そして、運送事業者は安定した収益確保や配車が行えることになり、運行計画も組みやすくなる。荷主、運送事業者双方においてメリットが生まれる。

【村上委員】
・人手不足について、自社協力会社においても、労働時間の関係から給与低減を理由に他社等へ移動するドライバーがいるという声を聞くことがある。

【林委員】
・休憩時間や休息時間を確保し、労働時間が短くなっても変わらない賃金水準を保っていくことが必要である。
・運転手が確保出来なければ、作ったものが運べなくなる時代がそこまで来ている。

・日頃から長時間労働を抱えているドライバーであるが、運転は嫌いではないと言う。その原点には長時間走らないと賃金が稼げないという理由がある。
・一方で、運送事業は過労死の業種別でも認定件数が高く出ており、健康確保も重要な課題となっている。
・女性の活躍や、パレット輸送の活用が当たり前の時代が来ることを期待する。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・今回のパイロット事業では、休息場所確保については難しい点もあった。

【中岡委員】
・駐車場の開放については、ごみの問題もあり難しい面もある。
・工業団地では、トラックを駐車できるコンビニはいくつがあるが数が依然足りない。
・休息場所確保については、これからも提言していきたい。

【林田委員】
・法令遵守による、賃金低下への不満の声はいくつか挙がってきている。
・この度のパイロット事業における休息時間は運行途中の休息時間なのか。

【（株）日通総合研究所佐藤氏】
・運行途中の休息期間と見て頂いて構わない。

【有利座長】
・運送業界においては未だ様々な問題がある。
・この度、パイロット事業を以て検証したことは効果があり、この結果を活かして引き続き検討を重ねて改善していくことが必要になる。

【西田岡山県トラック協会専務理事】
・今年度、事務局（労働局、運輸支局、トラック協会）で荷主事業場を訪問し、運送業界の実態や当協議会について周知活動を実施した。
・来年度も事務局で同様の取組を行い、荷待ち時間短縮や適正取引推進に向けて協力を行っていきたい。

・荷主企業向けへの標準貨物自動車運送約款の改正やトラック業界の労働環境等についての説明会についても、トラック協会の分会単位で開催したいと考えているため、労働局・運輸支局の協力を願いたい。

（３）その他
【事務局】
・次回協議会にて、これまでの協議会のとりまとめを【報告書】という形で配布したい。

・次回協議会は６月頃を予定している。正式な日程は追って連絡する。

４．閉会